

21 漢方薬による便秘治療によって 臓器脱による排尿困難感が改善した 高齢女性の一例

二宮レディースクリニック
二宮 典子、鎌田 良子

【緒言】骨盤臓器脱は、女性の骨盤の中にある子宮、膀胱、直腸、膣などの臓器が、骨盤底筋機能不全によって、臓器が本来の位置より下垂している状態である。疾患の原因として、出産や肥満などの骨盤底筋への負担、加齢に伴う筋肉量の減少、閉経後の女性ホルモンの減少による骨盤底の支持力の低下などが考えられている。患部への羞恥心などを理由に患者は病院を受診することが少なく、骨盤臓器脱の診断診断を行う医療機関は全国的にまだ不足しているため、日本における骨盤臓器脱の患者数や受診状況についての正確な有病率は不明である。根治治療は手術加療のみであるが、患者が高齢であったり、医療資源の制限などといった事由によって、保存的治療が優先される症例も多い。しかし、骨盤臓器脱の症状は臓器下垂感にとどまらず、排尿や排便症状を伴うことも知られており、治療が不十分であると患者QOLを著しく低下させる。今回我々は、骨盤臓器脱による臓器下垂によって排尿症状を有するものの、すぐに手術治療が困難な高齢女性に対し、保存的治療とともに漢方治療を併用することで排尿症状の改善を認めた症例を経験したので報告する。

【症例】75歳女性。特記すべき既往歴なし。2経産。以前より下垂感を自覚し、近医クリニックで子宮脱を指摘されていたが経過観察の方針となっていた。X年7月、臓器下垂感が悪化するとともに、頻尿と排尿困難感が出現してきたため治療を目的に当院を受診。非観血的にリングによる膣壁挙上を行い見た目の状態は改善したものの、排尿困難感が継続していた。排尿後残尿は100mlであった。本症例の便秘とイライラに対し、乙字湯処方を開始したところ、両症状の改善があった。さらに、排尿困難感も消失した。排尿後残尿50ml程度となり経過良好である。

【考察】乙字湯は6つの生薬から構成される処方である。適応は痔・便秘であるが、痔と骨盤臓器脱の病態は類似することも多く、精神面も含めた症状の改善効果を発揮したのと考えられた。